

一舞妓舞畢及黃昏仍催主殿女官令供掌燈先藏人二人供御帳前燈臺二基次女官臺盤脇燈臺二基南廂燈械八御粧物所燈臺一基等如例供奉之

一戌刻前宴會終所役早出聞糺官外記告奉行撤却退出以命示官外記出納内膳司等戌刻計常顯俊常兩人退出

〔蒼梧隨筆〕白馬節會拜見のありさま 正月七日の節會を白馬阿於の節會といえり抑春は

東方に位して木の徳あり木の色は青しよて青陽共青春とも賀す然して年のはじめに馬を見れば其年の邪魔を除くといへる事禮記に見えたり是を以今日主上群臣と共に白馬を覽し玉ふの義也略古此節會には月毛の馬を廿一疋牽出て底上をわたる事なり則左馬寮より十疋右馬寮より十疋此外に餘馬と稱して左右馬寮より隔年に一疋づ牽わたせるよし也是は大内裏時の義にて諸の官舎も備り庭上も其を行ふにたへたる結構なるゆへなり今は庭上もせばししく左右馬寮も名のみなるをもてたゞ禮容を失ざるの義のみにて廿一疋の十分一にてたゞ二疋を引わたすのみなり然れども節會に大小の二様あり白馬と豊ノ明リは大節會にて元日踏歌などいへるより又一法ほに嚴重なる趣きなるよし也中世以來四節會共元日踏歌大明犬凡酉の刻の催にて日入て後の行事にて其御式のはてぬるは曉方に及べり然るに當今光の御代に至りて殊更の僉議をもて馬は青春覽し玉ふ事は春の陽氣をむかへて邪氣をはらふの古實にて舊例も晝の間に馬を覽し給へる事なり去れば古は除目の義は六日の事なりしかども其式の繁多なるに及ては曉に及べる事もありしに於て然る時は白馬の節會の妨なりとて五日に除目を轉せられて行ふよし桃花の御説見えたれば古しへ白馬の御式は晝行れし事顯然たるもの也去程に今年の春去年の霜月に京上して其處此處逍遙しておもはず年を重ねたるの幸に件の御式を拜し奉りし其義年來拜し來れるに聊も替れる事なく誠に嚴重